平成２５年度　第１回　くまもと在宅医療・介護ネットワーク検討会　議事録（要旨）

Ⅰ　日　時　平成２５年５月９日（木）午後７時～

Ⅱ　場　所　ウェルパルくまもと　４階会議室

Ⅲ　出席委員　名（五十音順、敬称略）

浅見　直美、今村　文典、緒方　美穂、木村　浩美、後藤　慶次、佐藤　英一、園田　寛、田島　和周、古川　猛士、村田　秀博

Ⅳ　次　第

１　開会　　医療政策課長挨拶

２　議事

（１）平成２４年度の振り返り

（２）平成２５年度からの取り組みについて

ア）事業計画について

イ）多職種連携研修会について

ウ）病院－在宅連携強化に向けて

（３）その他

３　閉会

Ⅴ　議事録（要旨）

（１）　平成２４年度の振り返り

事務局より説明（議事略）資料１

- **（委員）**マップの活用状況はや閲覧状況はどれ位あるか。
- **（事務局）**ホームページの閲覧状況は不明。数件問い合わせはあり、マップを紹介している。
- **（委員）**情報の更新も必要ではないか。
- **（事務局）**年１回くらい更新が必要と考えている。

（２）　平成２５年度からの取り組みについて

ア）事業計画について

事務局より説明（議事略）資料２

- **（委員からの発言なし）**
-

イ）多職種連携研修会について

事務局より説明（議事略）資料３

- **（委員）**実際に何をするかが大事。１回目、２回目は連携のための研修（連携のやり方、顔見知りになる）だったが、最終的には人材発掘や育成が在宅医療の推進に繋がると思う。そのためには事例検討が一番近道だと思う。
  ケアマネや訪問看護師がキーパーソンなので、その質の向上を主眼にすべきと

思う。ケアマネや訪問看護師が経験した事例を発表することで、他の人が「自分もできる」と感じ、また発表するような機会を積み重ねていくことが良いと考える。

- （**委員**）メンバーの規模は？どの位の人選をするのか？
- （**事務局**）人数制限はせずに、希望者には全て参加してもらう方向で考えている。
- （**委員**）今まではグループワークをやってきたが、今後はどうか。
- （**委員**）自分の地域では、架空の事例に対し、グループでどのように支援していくか検討する研修会を開催した。今後は、このようなグループワークの他に、職種別に事例を支援するために必要なトレーニングの機会を作っていきたいと考えている。研修会については、どこまで行政が旗振りをして、どこから地域でやるのか役割を決めていかないと、全て行政で行うのは難しいだろう。

- （**委員**）市民啓発も、たくさんの人を集めての講座ではインパクトはあっても、当事者でない人にとっては、一度目にしただけでは残っていかない。今後地域では、ボランティア的にかかわる人が大切になってくるであろうと考えると、例えば「在宅ボランティア育成講座」のようなものはどうか。意欲の高い人にポイントを絞るので、継続的に行うと、地域での実践に効果が高いのではないか。
- （**事務局**）検討していけると思う。現状、ボランティアポイントや介護予防サポーターなどあるが、どのように活用していくかが難しい。
- （**委員**）行政がボランティアを養成し、地域で活用の場を探すなど連携していかなくてはならない。
- （**事務局**）口コミの効果が大きいので、地域の意識の高い人に知っておいてもらうだけでも、効果はあるかもしれない。
- （**委員**）在宅の環境を近所の人が知っていることで、在宅が進んでいくことに繋がる。近所の人を巻き込むことも大切。
- （**委員**）ケアプランに中に特定の人を巻き込んでいくこともある。情報をオープンにして、いつでも近所の力を借りられる状況を作っていく。その中に知識のある人がいるとなお良い。

- （**委員**）多職種連携研修会の話題に戻る。具体的にどうやれば上手くいくか。
- （**委員**）在宅医療の中心は訪問看護師やケアマネだが、研修会をすすめるにあたっては、医師会の医師が中心になったほうが上手く回るのではないか。在宅ドクターネットのメンバーが、他の会員でない医師に声をかけて集まってもらい、地区ごとにすすめて行くしかない。まずは中心になる医師を集めて動かし始めることが先決。難しいエリアでは、他の地区からのアプローチをかけることも必要になるだろう。
- （**委員**）ある程度こちらからお願いして、その医師を中心に進めていくということ。個人的には在宅ドクターネットを中心に行ってほしいと思っている。

・　**（委員）**まず確認したいことは、一番に同職種の集まる会が必要であって、次に他職種が集まる会が必要。先日の在宅ドクターネットの世話人会において、緩和ケアや高齢者など地域の特性に応じたテーマで地域ごとの取り組みを進めていこうとの意見があった。それぞれの地域で特性を持たせることで、全体の発展に繋がると思う。
・　**（委員）**区はエリアとして広いのではないか。
・　**（委員）**区によってはサービス事業所が揃っていないところもあるので、区で行ったほうが良いところもある。
・　**（事務局）**エリアについて特に制限するつもりはない。地区ごとにやりやすい範囲で決めてもらって構わない。
・　**（委員）**北区、武蔵ヶ丘、菊陽付近で、５月１５日に「在宅支援研究会」を開催予定。
・　**（委員）**本当はそれが理想だが、地域独自の取り組みができていない所をどうするかが問題。
・　**（委員）**熊本市全体をどのようにしていくかということ。
・　**（委員）**どのようなエリアで取り組みを進めていくかは、集まった区で考えていくしかない。
・　**（委員）**先進事例を参考すると取り組みやすいし、他の地区も触発されると思う。
・　**（委員）**実際には、熱心な人をピックアップして、区のリーダーとして、何人かに集まってもらう。そして一度実行委員会を開く。その後、また多職種で集まるというようにステップを踏む必要がある。
・　**（事務局）**どこまでが行政の役割なのか、まだ想定がない。
・　**（委員）**区ごとの開催までが行政の役割だと思う。地区ではそれぞれの特色を活かして取り組んでいかなければならない。そのリーダーとなる人を育てていくのが、この会の目的と言える。
・　**（委員）**根付いたところで質が上がらないと、一般の人にとってのメリットはない。ケアマネや訪問看護師の人数を増やしたり、レベルを上げることも必要だが、医師の連携が進んでいかないと、受け皿が広がらない。
・　**（委員）**個別に医師を訪問して、声かけをしている。施設が急速に増える中、在宅についてよくわかっているのは包括支援センターだと思うので、そこを中心に情報をもらって、地区でやってみたいと思っている。
・　**（委員）**ささえりあが作ったマップは利用できないか。
・　**（委員）**医療機関の名簿はあるが、詳細内容はあまりない。
・　**（委員）**顔の見える関係はあったほうが良い。顔見知りになるためにスタートしたい。
・　**（委員）**最終的には組織作りをしようということ。熱心な方を見つけようというのが次の会なので、そういうイメージでよろしいか。
・　**（委員）**区ごとに研修会を実施するとき、医療政策課が声をかけて開催するということで良いか。

・　**（事務局）**その通り。
・　**（委員）**地区多職種連携連絡会も並行して立ち上げるのか。
・　**（事務局）**これまでの研修会の参加者に連絡会に入ってもらい、地区での取り組みを行ってもらうつもりである。

ウ）病院－在宅連携強化に向けて

事務局より説明（議事略）資料４

・　**（委員）**退院支援については、在宅ドクターネットで４年間力を入れて、取り組んでいたところ。公的病院等地域連携協議会（Ｇ８）によって、公的病院の退院支援のレベルが上がってきていると感じている。
・　**（委員）**確かに退院支援のレベルは上がってきている。ただし、入院期間の短縮により、必要に迫られている背景もある。退院支援の申し合わせやツールも増えているので、あえて行政が介入する必要はないのではないか。
・　**（委員）**医療法人会の中規模病院のワーカーや退院支援にかかわる師長や主任などにも声をかけて、多職種連携研修会への参加を促してはどうか。
・　**（委員）**大病院とは抱える問題が違うので、参加してもらったほうが良い。最近は、急性期病院からの退院先は直接在宅でなく、途中に施設を経由することが多い。
・　**（委員）**区ごとの研修会になった時に、急性期病院はどんなスタンスでどこまでかかわるのか疑問に思っている。市外の患者も多い。
・　**（委員）**区ごとの研修会では医療法人会も参加してもらうが、病院―在宅連携強化については、熊本市では検討しなくて良いということでよろしいか。
・　**（委員）**回復期病院から退院するとき、ケアマネが医療の情報を把握できれば支援しやすい。医療法人会の師長に在宅サービスのことをわかってもらうと、ケアマネへのアドバイスもしてもらえると思う。医療と介護の意見交換ができると、在宅生活のレベルアップになる。
・　**（委員）**回復期病院などに地区の多職種連携研修会に参加してもらうこと。もうひとつは個別にそういう病院に集まってもらって研修が必要。地区ごとにテコ入れする必要がある。
・　**（委員）**地域での拠点病院を中心にしていくと、上手くいくのだろうかとも思う。
・　**（委員）**急性期病院へは区を越えて案内を出すよう配慮いただきたい。

（３）　その他

地域医療再生計画について（議事略）

在宅医療相談窓口相談事例について（議事略）